

2021.4.15 Tさんの海上行動時の事故(以下敬称略)

*Kさんがまとめた事故説明分を、千葉が追加編集しています。 2021.05.25

11:20頃

- ・カヌーチーム8艇が長島の陸地側の岩場辺りより、K8護岸に着岸しようとするランプウェイ台船抗議しようとかヌーを漕ぎだす。
- ・Tも、後方から他7艇と一緒に漕ぎだす。前方のカヌーが拘束されている間を抜けて湾内奥に進む。

11:36

*説明文の黒文字はKさん、青文字はTが後で補足説明を追加



- ・Tのカヌーに向かって、GB28が左側から突進して来る。Tは手を上げながら3~4回危ないと叫ぶ。



- ・GB28の船首が直接Tの左わき腹にぶつかる。



- ・カヌーはそのままGBの船首下に入り、Tの下半身はGB28の下に入り込みTはGB28の船首にしがみつく格好となる。

GB28の左側にカヌーの先端が見える。これはカヌーがGBの下にあると思われる



・そこに右後方から海保乗員 2 名の GB27 が突っ込んでくる。



・T は GB28、27 の 2 艇に挟まれてしまう。

・海で戦う戦車みたいな GB に挟まれることは陸上で歩行者がダンプカーに挟まれるような非常に危険な行為です。死んでもおかしくないと思います。この時、胸が圧迫され苦しかった記憶があります。



・まだ意識があったので GB に抗議するも艇長も操縦士も目の前の事実を認めようとはしなかった。事実は事実として認めるのは人間として最低のことではないかと強く思う。

・その後、急激に意識が遠のいた。



・その後 GB27 は、GB28 の左舷から GB28 の前方に進む。GB28 の艇長がハンドマイクで GB27 に注意をする。

・その後、T はカヌーの上でうずくまる。吐き気をもよおしたので吐こうとしたが出ず。

・T は GB28 との衝突の際、船首で左わき腹を打撲する。また、GB27 の船首で首を打撲する。



そのあと T は苦しくてカヌーに横たわる（向こう側）



12 : 06

・ T は、GB28 に乗り込んだ際、自分の携帯で海保の写真を撮る。
（ GB 操船者 4、艇長 13）

・ これを撮っておかないと後で「そのような事実はない」と逃げられる。過去に何度もある。T は意識朦朧としていたが必死になって一枚だけ写真を撮る。

・ その後の行動については、T は記憶がはっきりしていない。

12 : 10 頃

・ 海保の統括より、声かけをしても返事がないカヌーメンバーがいる旨の話が勝丸の 0 船長にある。

・ N が救急車を呼ぶ。

・ GB 統括から、T を GB から不屈に乗り移らせ、辺野古漁港に向かうことのできる了承を得る。

・ K4 辺りの開口部で、GB の 3 艇目に乗っていた T が、GB から不屈に乗り込む。T は、足元がおぼつかなくフラフラ状態で、GB から不屈に乗り移る。不屈に乗り込んでも、話ができない状態で不屈後方にうずくまる。

・ 不屈が辺野古漁港に着くと、救急車が 1 台止まっていて、救急隊員 3 名と警官 2 名が岸壁に立っていた。

・ T は、不屈から這うようにして岸壁の階段を登り、救急車に入り込む。T 葉声掛けに少し答える。付き添いで K1 も救急車に乗り込む。

・ 救急車の中で T は、ベッドに仰向けになれず右側を下に横向きで丸まって寝る。ベッドの柵を上げようとして救急隊員が T の足を延ばそうとするが、T が苦しくなるのでそのままにする。

・ 救急車の中では、心電図、血圧、心拍、SP02 を測る。はじめ血圧は上が 150 位以上になるが、その後が 130 前後となる。血圧の下は 80 前後で安定している。脈拍はやや高く 80 前後。SP02 は 97、8 で安定。

・ 救急隊員が、痛いところを T に聞き、左わき腹の様子を確認する。T は救急隊員に聞かれたことをぼそぼそと話をし、

・救急車が県立北部病院の救急外来入り口につく。救急車からベッドに乗ったまま救急診察室に入る。K1は、診察室より出て待合所で待つように言われる。

・3名の制服姿の海保が来て、Dr. と話をする。医師が、本人の承諾がなければダメな旨話をしている。その後、3名の海保は病院から出ていく。

・診察、検査等終わり、Tのベッドは救急診察室横のスペースに移される。

・K1がTに声掛けすると先ほどよりはしっかりと受け答えができる。Tは左わき腹より首の後ろが痛いと訴える。

・林Ns. orDr. が来て、診察、X線検査等の結果では、外傷は見られず内臓にも問題は見られない。しかし、今後生活していく中で頸椎がずれてくることもある。近所の整形外科に行くように話す。

・K1が会計をしているとき、Tは自分で荷物を持ち靴を履いて、待合室に来る。

だいぶ受け答えがしっかりとしてくる。

・診断書「前胸部打撲、頭部打撲」「全治2週間程度の見込み。ただし、経過によってはこの限りではない。」
医師 高良剛ロベルト

・K2が迎えに来てくれて、K2の車で帰宅する。

<Tの体調>

4.15

帰宅してから、頭が回らず考えるのが億劫そう。自分で何を言っているのかわからない、話をしても頭に入らない旨訴える。

* 5月29日現在

- ・事故48日経過後も首の痛みと頭痛で夜もあまり眠れず苦しんでいる。特に後頭部痛、首痛は朝起きた時が強い、今もこれは続いている。事故後継続して痛み/炎症を抑える薬を朝夕服用している。同じく張り薬湿布を首に貼っている。5月27日の診察でさらに医師の指示で6月31日まで継続の指示があった。つまり最低80日の治療期間が必要となっている。
- ・右胸は徐々に良くなり30日経過後痛み、違和感はなくなった。
- ・48日経過後も右足の底のシビレ右手中指、人差し指のシビレは続いている。